

From **Petroleum To Bio.**
Bio-manufacturing changes the **world.**

石油から、バイオへ。 世界を塗り替える。

2026年9月期第3四半期 決算説明資料・中長期ビジョン進捗レポート

～ バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォームを目指して～

最近の当社ビジネスを巡る環境と当社の対応



代表取締役CEO
伊原 智人

第2創業の幕開け — 中長期ビジョンの公表

当社は2026年7月15日に中長期ビジョンを公表いたしました。今回の中長期ビジョンは、当社にとって「**第2創業**」の幕開けと位置付けるものであり、「**研究のGEI**」から「**稼ぐGEI**」へと進化し、収益の安定性と成長性を両立する事業基盤の拡大を通じて、「**バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォーマー**」を目指す姿をお示しいたしました。

「バイオものづくり」を巡る政府方針 — 日本の成長戦略

2026年7月21日に閣議決定された「**日本成長戦略**」において、「バイオものづくり」は、我が国の産業競争力の強化および経済安全保障に資する中核領域の一つとして位置付けられました。さらに、同日に日本成長戦略本部で決定された「戦略17分野における『主要な製品・技術等』の官民投資ロードマップ」では、**2040年における我が国企業の売上目標が11.9兆円（グローバルシェア10%）**とされ、その実現に向けて投資支援をはじめとする各種政策が推進されることとなっております。

歴史的な追い風

こうした政府の方針は、「バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォーマー」を目指す当社にとって、**大きな追い風**になるものと考えております。

経営コミットメント

この**歴史的な追い風**を確実に捉え、中長期ビジョンで掲げた成長戦略を着実に実行することで、**企業価値の最大化**を目指してまいります。

※ 出典：内閣官房「日本成長戦略」（2026年7月21日 閣議決定）／日本成長戦略本部「戦略17分野における『主要な製品・技術等』の官民投資ロードマップ」

目次

本資料は「決算説明資料」と「中長期ビジョン進捗レポート」を一体化し、下記の5セクションで構成しています。

01

エグゼクティブサマリー

3つのPOINTで振り返る 3Q・通期予想・中長期ビジョンの進捗

P. 04

02

3Q決算ハイライト

主要指標・損益計算書・売上高・販管費・貸借対照表・重要変動科目

P. 05 – 10

03

通期業績予想の進捗

2026年9月期通期予想に対する3Q累計進捗と据え置き根拠

P. 11

04

中長期ビジョン進捗

2031年9期目標再掲・16パイプライン全体・開発型BF・生産型BF（化粧品原料等／食品添加物／飼料添加物）・テクノロジーパッケージ

P. 12 – 17

05

株主・投資家の皆様へ

IRコミットメント

P. 18

01 — エグゼクティブサマリー

本資料の要点を、3つのPOINTで

2026年9月期3Q決算／通期業績予想／中長期ビジョン進捗を、各POINTでサマリー。

POINT 01

2026年9月期 第3四半期の説明

< 概要 >

売上高 274百万円。期初計画通りに推移。

営業損失 △383百万円（前年比△140百万円）。販管費の先行投資が主因。

総資産 3,380百万円（前期末比+413百万円）。セミコマ建設本格化（建設仮勘定+404百万円）とNEDO関連仮受金の増加（+981百万円）で基盤整備が加速。

POINT 02

通期業績予想の 進捗

< 概要 >

通期業績予想は据え置き。売上高1,035百万円／経常利益175百万円／純利益146百万円。

4Q売上高への計上予定：NEDOまたは事業会社からの検収を経て、P.10の仕掛品に対応する売上高を計上。

4Q営業外収益への計上予定：NEDOからの検収を経て、P.10の仮受金（木質バイオマス由来エタノール・製紙産業素材由来バイオ燃料・樹脂）が営業外収益に振替計上。

POINT 03

中長期ビジョンの 進捗

< 概要 >

1Fの全16パイプラインの進捗を、四半期単位で開示。

開発型バイオファウンドリ（3件）：バイオファウンドリ事業として2027年4月より本格展開。

生産型バイオファウンドリ（10製品）：化粧品原料等・食品添加物・飼料添加物の各領域で商用化に向けて進捗中。

テクノロジーパッケージ（3PJ）：バイオ燃料の稼働中2PJがセミコマ／パイロット建設・GWE連続運転テストを進行し、2F解禁への基盤を形成。

02 — 3Q決算ハイライト | 主要指標

3Q累計 主要3指標

2025年10月～2026年6月累計。売上・損益・財政状態の3軸で3Q実績を整理。

売上高

2026年9月期 第3四半期累計

274

百万円

前年同期比 Δ **10.7%**（前年同期 307百万円）

テクノロジーパッケージ177百万円／開発型BF 91百万円／生産型BF 6百万円の3本柱。前年はテクノロジーパッケージの大型案件一時金の割合が高く、当期は4Q計上予定のため相対的に低下。

営業損失

2026年9月期 第3四半期累計

Δ 383

百万円

前年同期 Δ **242百万円**

原価率の増加（前期は売上高に占めるテクノロジーパッケージの割合が多かったことが主因）／販管費の増加（先行投資による）。

総資産

2026年6月30日時点

3,380

百万円

前期末比 **+413百万円**（前期末 2,967百万円）

セミコマ建設に伴う建設仮勘定+404百万円、仕掛品+352百万円。負債側はNEDO関連の仮受金+981百万円（概算請求）が主因。

3Q累計の 損益実績

2026年9月期3Q累計と前年同期（2025年9月期3Q累計）の比較。売上高の内訳詳細は**P.7**参照、販管費の内訳詳細は**P.8**参照。

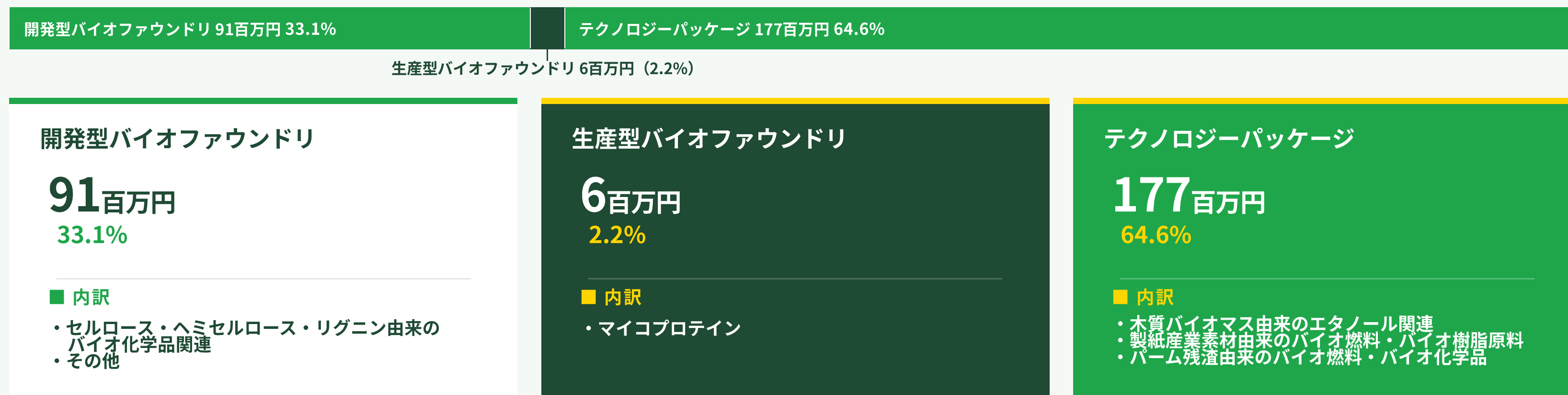
（単位：百万円）

科目	当3Q累計 2026.9期	前3Q累計 2025.9期	増減額	増減率
売上高 （詳細P.7）	274	307	△32	△10.7%
売上原価	108	80	+28	+34.8%
売上総利益	166	227	△60	△26.8%
販管費 （詳細P.8）	549	470	+79	+16.9%
営業損失	△383	△242	△140	—
経常損失	△386	△242	△144	—
四半期純損失	△391	△249	△141	—
〈参考〉1株当たり四半期純損失	△34.48円	△22.11円	△12.37円	—

02 — 3Q決算ハイライト | 売上高

売上高 274百万円の内訳と、その構成

当期 2026.9期3Q累計 売上高 274百万円 構成



〈参考〉前年同期 2025.9期3Q累計 売上高 307百万円 構成



■ 前年対比のポイント

開発型バイオファウンドリ：105百万円→91百万円（△14百万円）、生産型バイオファウンドリ：2百万円→6百万円（+4百万円）、テクノロジーパッケージ：199百万円→177百万円（△22百万円）。テクノロジーパッケージは前年に大型案件一時金の占める割合が高く、当期は4Q計上予定のため相対的に減少。総額は307百万円→274百万円（△32百万円）。

02 — 3Q決算ハイライト | 販管費

販管費 549百万円の内訳

当期 2026.9期3Q累計 販管費 549百万円 構成



02 — 3Q決算ハイライト | 貸借対照表

勘定科目別の構造変化

2026年6月末時点のBSを勘定科目レベルで前期末と比較。★印の4科目が変動の主因（詳細は次スライドで解説）。

（単位：百万円）

勘定科目	2026年6月30日	2025年9月30日	増減額	
【 資産の部 】				
現金及び預金 ★	1,741	2,059	△317	重要変動 04
仕掛品 ★	557	205	+352	重要変動 01
建設仮勘定 ★	429	24	+404	重要変動 02
その他の資産	653	679	△26	
総資産	3,380	2,967	+413	
【 負債の部 】				
仮受金 ★	1,490	508	+981	重要変動 03
その他の負債	175	353	△178	
負債合計	1,665	861	+804	
純資産合計	1,714	2,106	△391	

次スライド（P.10）にて、★印の重要変動科目4件（仕掛品／建設仮勘定／仮受金／現金及び預金）の背景・意味合いを詳述。

02 — 3Q決算ハイライト | 重要変動科目

2031年目標への財務基盤

3Qで動いた主要4科目。セミコマ建設とNEDO関連プロジェクトの進捗が財政状態に反映。仕掛品・仮受金の内訳は下段に開示。

重要変動科目 01 仕掛品 557百万円 前期末 205 +352 開発型BF・技術パッケージの仕掛案件が拡大。4Q以降の売上に繋がる先行仕掛。	重要変動科目 02 建設仮勘定 429百万円 前期末 24 +404 セミコマ建設の本格化。2027年稼働に向け着実に進捗。	重要変動科目 03 仮受金（負債） 1,490百万円 前期末 508 +981 国策案件の受託額・助成金前受け。年度末検収を経て売上または営業外収益に計上。	重要変動科目 04 現金及び預金 1,741百万円 前期末 2,059 △317 プラント建設・研究開発への戦略投資により減少。仮受金活用で必要資金は確保。
---	---	---	---

仕掛品 557百万円 と 仮受金 1,490百万円 の内訳

仕掛品 557百万円 の内訳				仮受金 1,490百万円 の内訳（負債）				
バイオフィアウンドリ事業関連	CO2由来のバイオ化学品	木質バイオマス由来エタノール	製紙産業素材由来バイオ燃料・樹脂	バイオフィアウンドリ事業関連	CO2由来のバイオ化学品	木質バイオマス由来エタノール	製紙産業素材由来バイオ燃料・樹脂	その他
432百万円 77.5%	64百万円 11.5%	41百万円 7.3%	21百万円 3.7%	758百万円 50.9%	86百万円 5.8%	80百万円 5.3%	566百万円 38.0%	0百万円 0.0%
NEDOバイオフィアウンドリ事業（2021～2026年度）の仕掛。	NEDOグリーンイノベーション基金事業の仕掛。	日本製紙・住友商事（森空プロジェクト®）との連携案件の仕掛。	大王製紙との連携案件の仕掛。	NEDOバイオフィアウンドリ事業（2021～2026年度）の概算請求。	NEDOグリーンイノベーション基金事業の概算請求。	日本製紙・住友商事・日本航空（森空プロジェクト®）との連携案件の概算請求。	大王製紙との連携案件の概算請求。	端数（252,000円）。

03 — 通期業績予想の進捗

通期予想 据え置き

2026年9月期通期業績予想（2025年10月～2026年9月）に対する3Q累計進捗率と、4Q着地見通し。

科目	通期予想	3Q累計実績	進捗率	対前期増減率
売上高	1,035	274	26.5%	△3.7%
営業損失	△356	△383	—	—
経常利益	175	△386	—	+12.1%
当期純利益	146	△391	—	+15.3%

通期業績予想の据え置き根拠

4Q（2026年7月～9月）に売上高へ計上を予定している主なパイプライン

- P.10で示した仕掛品に伴う売上高は、NEDOまたは事業会社からの検収を経て、4Qに売上高へ計上される予定。
- 開発型バイオフィアウンドリ：バイオフィアウンドリ事業（NEDO）
 - テクノロジーパッケージ：木質バイオマス由来エタノール／製紙産業素材由来バイオ燃料・樹脂原料

営業外収益への計上予定

- P.10で示した仮受金（木質バイオマス由来エタノール・製紙産業素材由来バイオ燃料・樹脂）は、NEDOからの検収を経て、4Qに営業外収益へ計上される予定。
- 木質バイオマス由来エタノール（日本製紙・住友商事・日本航空／森空プロジェクト®）
 - 製紙産業素材由来バイオ燃料・樹脂原料（大王製紙）

04 — 中長期ビジョン進捗 | パイプライン全体マップ

2階建ての成長エンジンと16パイプラインの対応関係

2F

対象パイプライン

3 / 16

バイオ燃料エネルギー革命

国家プロジェクト規模のエネルギー革命。

圧倒的スケールで世界市場にチャレンジする「**夢のエンジン**」。

1F

対象パイプライン

16 / 16

バイオ製品＋バイオ燃料

化粧品原料、食品添加物、香料など＋航空燃料（SAF）・バイオエタノール。

大手メーカーとの協業で、早期にキャッシュを生み出す「**稼ぐエンジン**」。

開発型バイオファウンドリ

全 3 件

- ・バイオファウンドリ事業関連
NEDOバイオファウンドリ事業
- ・CO2由来のバイオ化学品
NEDOグリーンイノベーション基金事業
- ・セルロース・ヘミセルロース・リグニン由来のバイオ化学品
住友林業

生産型バイオファウンドリ

全 10 製品

- ・化粧品原料等 A / B / C / D （4製品）
- ・マイコプロテイン / NMN / 食品添加物 A （3製品）
- ・飼料添加物 A / B / C （3製品）

テクノロジーパッケージ

全 3 PJ

- ・木質バイオマス由来のエタノール関連
日本製紙・住友商事・日本航空（森空プロジェクト®）
- ・製紙産業素材由来のバイオ燃料・バイオ樹脂原料
大王製紙
- ・パーム残渣由来のバイオ燃料・バイオ化学品
電源開発



テクノロジーパッケージ

全 3 PJ

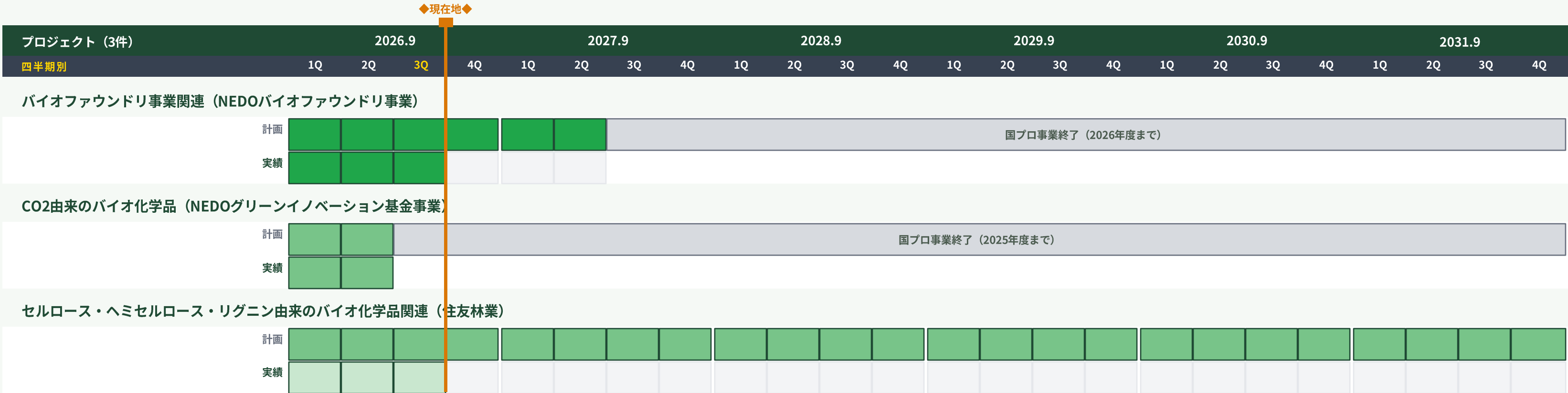
- ・木質バイオマス由来のエタノール関連
日本製紙・住友商事・日本航空（森空プロジェクト®）
- ・製紙産業素材由来のバイオ燃料・バイオ樹脂原料
大王製紙
- ・パーム残渣由来のバイオ燃料・バイオ化学品
電源開発

※ 中長期ビジョン（2026年7月15日開示）で示した2階建てビジョンとの対応。1F＝現在推進中の3事業16パイプラインが売上・利益の基盤。1F～2Fで確立したテクノロジーパッケージ（全3PJ）が、バイオ燃料エネルギー革命の起点となる。

※ 各パイプラインの2026.9期～2031.9期の「計画 vs 実績」四半期別マトリクス、および3Q時点の現在地は次ページ以降（P.13～17）にて開示。

共同研究・受託プロジェクトの進捗を、四半期単位で

凡例 研究開発 生産実証 国プロ事業終了



現在地 | 2026年9月期3Q（2026年6月末）時点の進捗

バイオファウンドリ事業関連

- 前処理から生産プロセスの最適化、スケールアップ及びサンプル生産に至るまで、一貫した開発支援を提供。これまでに17件の生産実証プロジェクトを推進。
- 2027年4月以降、本拠点の機能を自社サービスとして展開し、バイオものづくりの社会実装を目指す企業・研究機関向けに「バイオファウンドリサービス」として本格提供（詳細は、2026年6月10日 当社ニュースリリースご参照）。
<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/c0648afc/c75b/4636/91b3/93658b11656e/140120260610566863.pdf>

CO2由来のバイオ化学品

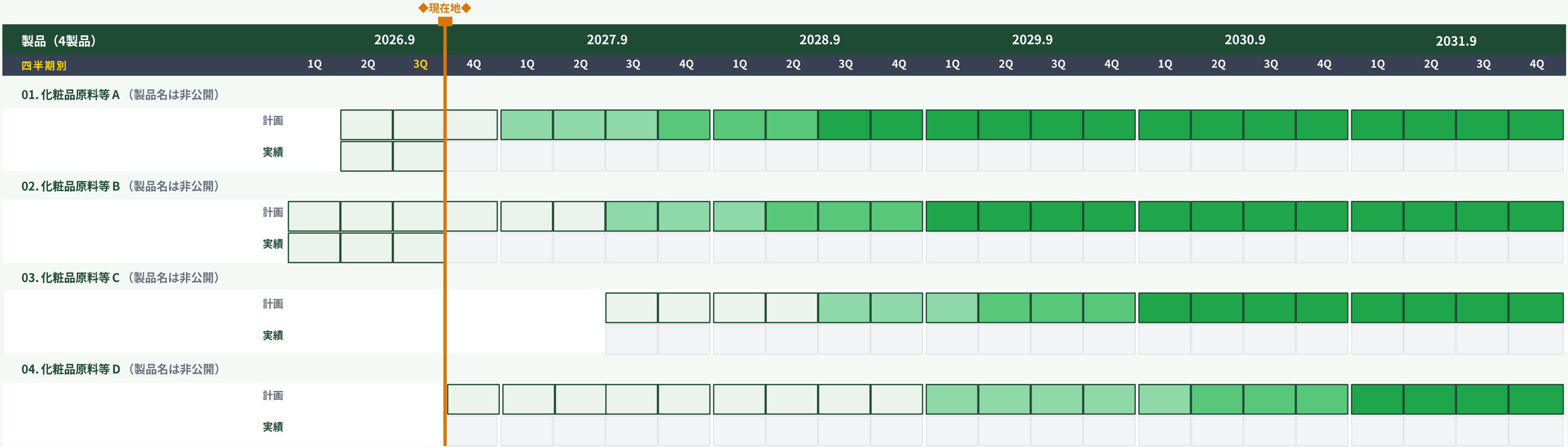
- NEDOグリーンイノベーション基金事業として2025年度（2026年3月末）で終了。

セルロース・ヘミセルロース・リグニン由来のバイオ化学品関連

- 住友林業が開発しているバイオ製品のプロセス開発等の研究開発を共同で実施（2023年11月15日 当社ニュースリリースご参照）。
<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/3b4f1c95/1e17/45a8/ae8a/6c6df44be5a7/140120231115590825.pdf>

化粧品原料等 4製品の商用化を、四半期単位で

凡例 生産技術検証 パイロットテスト 商用サンプル生産 商用生産



現在地 | 2026年9月期3Q（2026年6月末）時点の進捗

化粧品原料等 A

- 海外のOEM候補企業での生産可能性を検討。

化粧品原料等 B

- 海外のOEM候補企業を訪問。
- 実証試験の実施を検討。

化粧品原料等 C

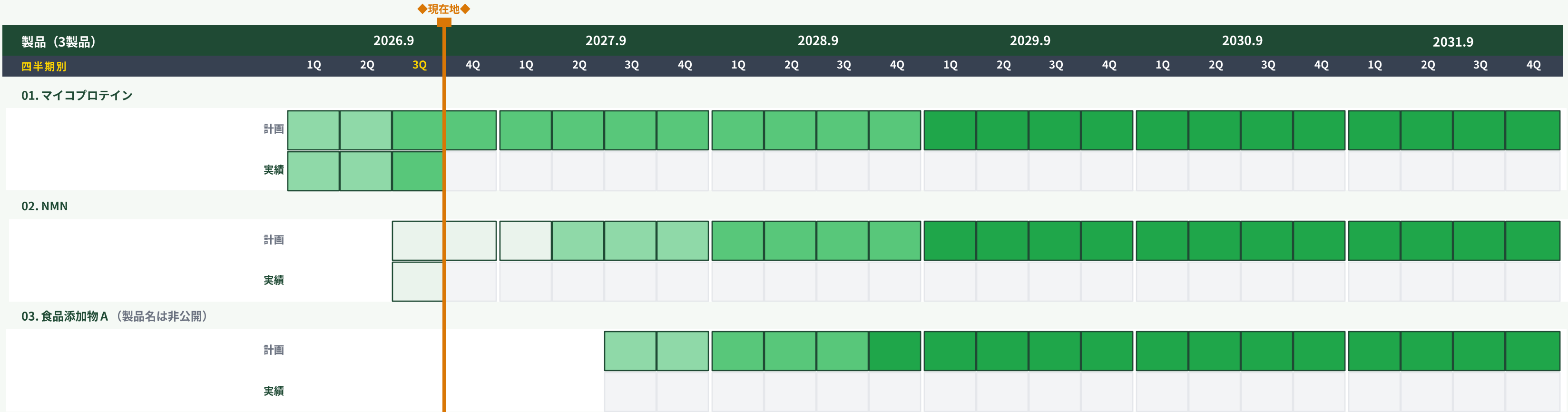
- パートナー企業による精製プロセスの条件確立中。

化粧品原料等 D

- パートナー企業と共同で生産技術実証の計画。

食品添加物 3製品の商用化を、四半期単位で

凡例 生産技術検証 パイロットテスト 商用サンプル生産 商用生産



現在地 | 2026年9月期3Q（2026年6月末）時点の進捗

マイコプロテイン

- サンプル生産に対するランニングロイヤリティ。

NMN

- シンアート社からNMNの生産技術のライセンス取得。
- 2027年にOEMによる生産開始を目指す。
- 2030年には数トン規模の販売を計画（2026年4月16日 当社ニュースリリース参照）。

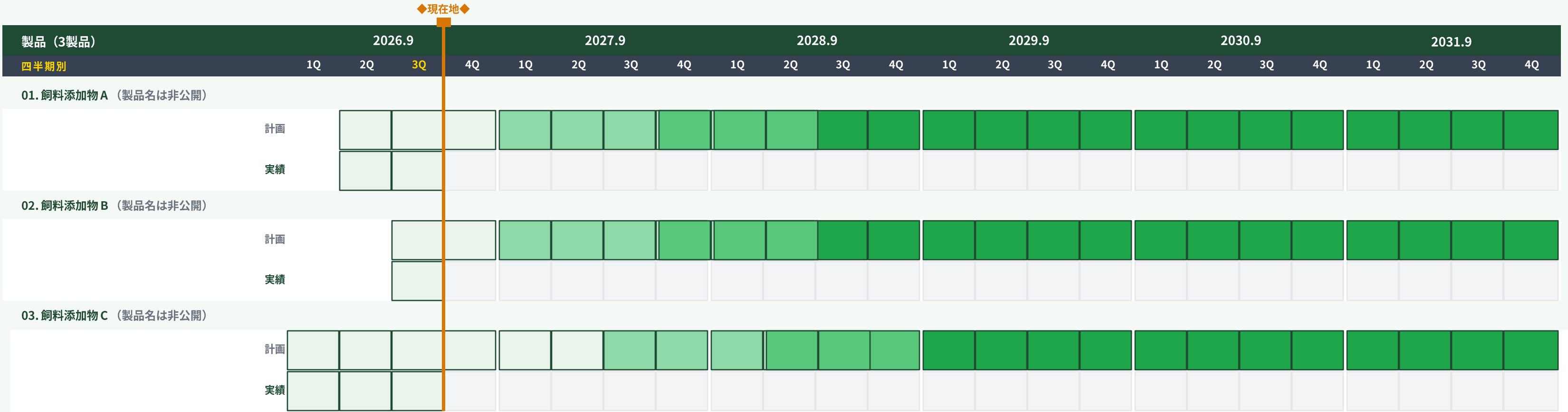
<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/8e1fb56f/7fbf/4ca3/a62e/168f16d2bccd/140120260416505108.pdf>

食品添加物 A

- 生産技術検証は概ね完了。
- パートナー企業において当該バイオ製品のマーケティング中。

飼料添加物 3製品の商用化を、四半期単位で

凡例 生産技術検証 パイロットテスト 商用サンプル生産 商用生産



現在地 | 2026年9月期3Q（2026年6月末）時点の進捗

飼料添加物 A

- 当社での生産技術検証完了。
- 海外のOEM候補企業での生産可能性を検討。

飼料添加物 B

- 海外のOEM候補企業で生産技術検証中。

飼料添加物 C

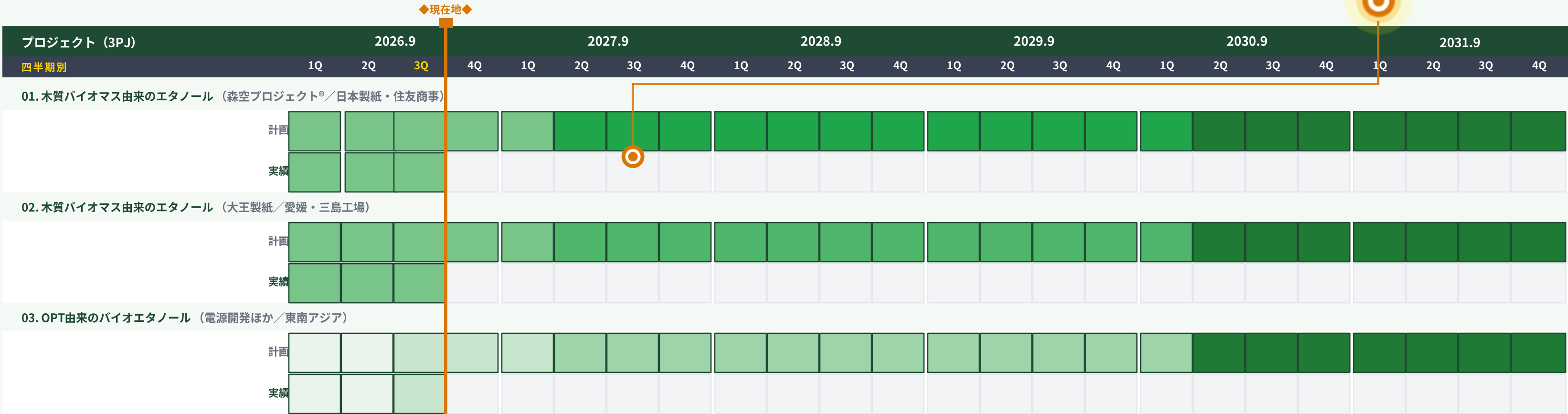
- 当社と海外のOEM候補企業で並行して生産技術検証中。

04 — 中長期ビジョン進捗 | 1F 稼ぐエンジン | テクノロジーパッケージ

稼働中の3プロジェクトの進捗を、四半期単位で

※本表は当初計画に基づく想定スケジュール。実績は四半期ごとに更新いたします。

凡例 ラボテスト パイロットテスト準備 パイロットテスト ベンチスケールテスト パイロットプラント稼働 セミコマーシャルプラント稼働 コマーシャルプラント稼働



現在地 | 2026年9月期3Q（2026年6月末）時点の進捗

木質バイオマス由来エタノール（森空PJ®）

- ・ セミコマーシャルプラント建設中（2027年稼働予定）。
- ・ ベンチスケールの設備において、GWEプロセスによる連続運転テスト中。
- ・ 出光興産 & 森空バイオリファイナリー合同会社が、純国産ATJ-SAFのサプライチェーン構築に向けた覚書を締結（2026年5月27日 当社ニュースリリース参照）。

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/ee6f2dfa/398d/48c4/b36d/a2da9e35a43f/140120260527550053.pdf>

木質バイオマス由来エタノール（大王製紙）

- ・ パイロットプラント建設中（2027年稼働予定）。
- ・ ベンチスケールの設備において、GWEプロセスによる連続運転テスト中（2026年7月2日 当社ニュースリリース参照）。

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/cbd6798e/90bf/4a7d/a382/b11b53e6c2bb/140120260702586706.pdf>

OPT由来のバイオエタノール

- ・ パイロットテスト準備（2027年テスト開始）。
- ・ インドネシア現地でパートナー企業と共同で検証試験。

※ プロジェクトの進捗により、マイルストーンは前後する可能性があります。

05 — 株主・投資家の皆様へ

株主・投資家の皆様へ

第3四半期では減収・赤字幅拡大となりましたが、これは**2031年目標達成に向けた計画的な先行投資フェーズ**によるものです。

建設仮勘定 +404百万円、NEDO関連仮受金 +981百万円が示す通り、**セミコマーシャルプラント建設と国家プロジェクト**が着実に進行中です。

COMMITMENT 01**通期業績予想の達成**

売上 1,035百万円／経常利益 175百万円

COMMITMENT 02**セミコマ稼働の実現**

2027年稼働に向けた基盤整備継続

COMMITMENT 03**2031年目標の達成**

3つの数字で応える

The Future is Green.

GEIの新章が、ここから始まります。

01

石油依存を、
ひっくり返す。

02

卓越した研究開発力
RITE時代からの30年

03

2階建ての
成長エンジン

04

ディープテックが、
キャッシュを生む

05

IPO 2.0
「稼ぐGEI」への転換

お知らせ

2026年9月期 第3四半期 決算説明資料 中長期ビジョン進捗レポート（動画）のお知らせ

2026年8月14日（金）16時に当社ホームページにて本資料の説明動画を掲載いたします。

掲載日時

2026.08.14（金）16:00

主催

Green Earth Institute 株式会社

説明動画・詳細情報

**当社ホームページ
にて掲載**



下記URLよりご確認ください
<https://gei.co.jp/ja/>

説明動画を通じて、決算内容と中長期ビジョンの進捗をご説明いたします。

DISCLAIMER

免責事項および将来見通しに関する注意事項

1. 将来予想に関する記述について

本資料に記載された業績予想・将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、リスク・不確実性を含んでいます。実際の業績は、経済情勢・市場動向・為替相場・技術開発状況・競合他社との関係等、様々な要因により、これら将来予測とは大きく異なる可能性があります。

2. 中長期ビジョンおよびパイプライン進捗について

本資料に記載された中長期ビジョン（2031年9月期目標）およびパイプライン進捗表（P.13～17）は、現時点における当初計画に基づく想定スケジュールです。プロジェクトの進捗状況・技術開発・パートナー企業との交渉状況等により、実際のマイルストーンは前後する可能性があります。

3. 投資判断について

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終判断は、投資家ご自身の責任においてお願いいたします。